



今日のトピック 世界の「投信マネー」(2020年6月)  
引き続き米国債券ファンドへの流入続く

全体の流入超過額はMMFの流出で縮小

- 6月の投信マネーは全体で+378億ドル(5月+1,438億ドル)と流入超過額が縮小しました。「MMF」が▲764億ドル(同+916億ドル)となったことが主因です。ただ、内訳をみると「債券」は+1,071億ドル(同+651億ドル)と流入が加速しました。一方、「金」などを含む「オルタナ」は+98億ドル(同+146億ドル)、「バランス」は▲19億ドル(同▲13億ドル)でした。「株式」は▲8億ドルと前月の▲262億ドルから流出超過額が大きく減少しました。

債券ファンドは米国クレジットへの流入継続

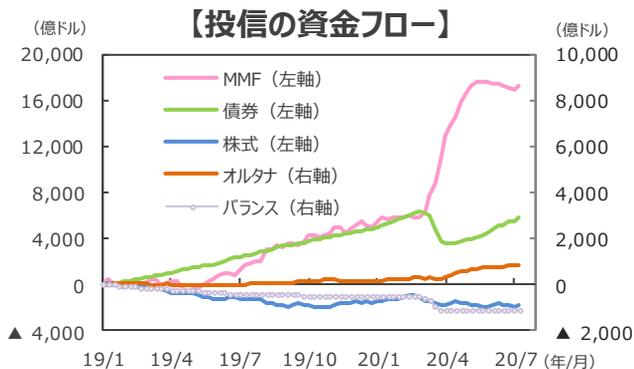
- 債券ファンドは「米国」への流入が続いています。特に「投資適格社債」、「ハイ・イールド社債」といったクレジットファンドへの流入が顕著です。米連邦準備制度理事会(FRB)が個別企業の社債購入を開始したことなどから安心感が広がっています。

株式ファンドは流出超過額が縮小

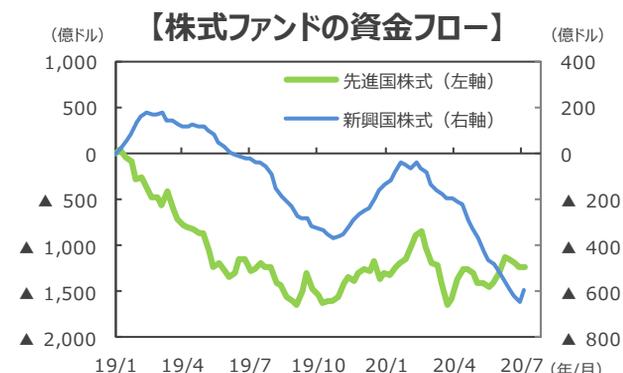
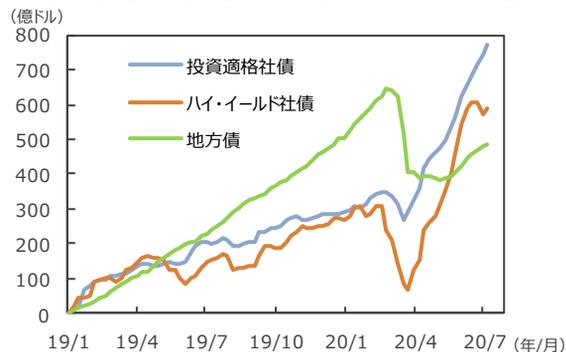
- 株式ファンドは「先進国」が+161億ドル(同▲109億ドル)でした。「北米」が+96億ドル(同▲85億ドル)、「アジア(日本を含む)」が+26億ドル(同+58億ドル)等でした。一方、「新興国」は▲170億ドル(同▲153億ドル)でした。5か月連続の流出超です。引き続き新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、不透明感が強い状況です。

7月第1週の新興国株式ファンドへの流入には注意が必要

- 新興国株式ファンドが、7月第1週に+57億ドルと20年2月以来の流入超となりました。中心は「アジア」で+63億ドルで、そのうち「中国」が+60億ドルです。7月1日に発表された景気指標が好調であったことなどから安心感が広がり、資金の流入が加速したと考えられます。ただ、香港国家安全法に関連する思惑的な動きである可能性もあり、新興国株式ファンドの動向には注意が必要です。



【主な米国債券ファンドの資金フロー】



(注) EPFRグローバル：米国に本社を置く金融商品の調査会社。2020年5月末現在37.1兆ドル規模の世界のファンドの資金フローデータを持つ。データは2019年1月2日～2020年7月8日。週次ベース。2019年1月からの累計。  
(出所) EPFRグローバルのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも  
チェック!

2020年7月 8日 吉川レポート：分岐点か踊り場か  
2020年5月26日 中央銀行の信用供与がクレジット市場に与える影響

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。